

<準備編> このページは子供向けに書いています。

2009.8月作成

用意する物 生たまご

包丁（くだものナイフや切れない包丁でも十分）、つまようじ

まがるストロー

たまごの中身をうけるボウルやおわんなど

①たまごのカラに傷をつけて穴を開けます。

・包丁の刃元（写真）の部分を使ってカラをコツコツたたいて、ストローが入るくらいの穴（直径1cm弱で十分）になるよう、カラを割ります。

・たまごのとがった方でなく「丸いほう」に開けたほうがカンタンなので、初心者にはオススメ。



※次のページの作品では作るものによって穴をあける位置が違います。作りたいものを考えてからカラの準備をしましょう。特に横側に穴をあけるときは、ヒビが入りやすいので注意してがんばりましょう。

【豆知識】ひよこがカラを割って出てくるとき、横側に穴を開けることが多いです。横側が割れやすいのがわかっているんだね！

②割ったカラをなるべくきれいに取り除きます。（つまようじなどを使っても）

③ストローをまげて短いほうを差し込みます。（黄身にささらない方があとで洗いやすいので、カラに沿わせるようにして黄身をよけて差し込みます）

④ボウルなどの上で、穴を下に向け、ストローから一気に息をふき込むと、ストローとカラのすきまから中身が出てきます。空気の力で中身を押し出すのです。

（たまごの中身は、料理やお菓子作りなどに使っておいしく食べてね！）

⑤カラの中に水を半分くらい入れ、穴を指で押さえてよく振ります。中の水は出にくいので④同様にストローで息をふき込んですてます。3～4回洗います。

⑥外側の水気をふき、中の水が切れるよう、穴を下にしてしばらくおいておきます。

⑦穴を上に向けて3～4日、中をよ～く乾燥させます。

※よく洗ってよく乾燥しないと、あとでせっかくの作品にカビが生えちゃうよ！

※失敗しても気にせず、どんどん作ろう！ そして、たまごをたくさん食べてね！

たまごのカラで遊ぼう

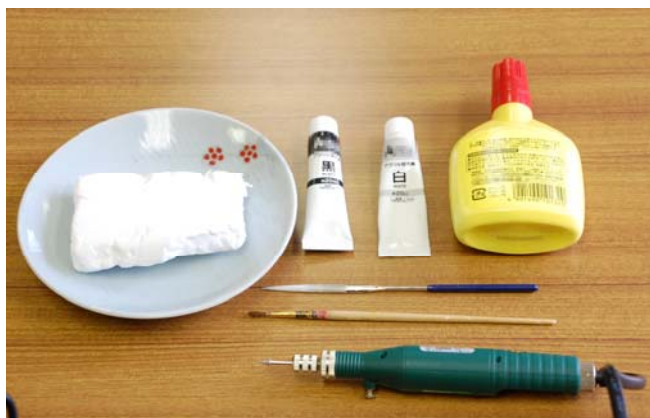
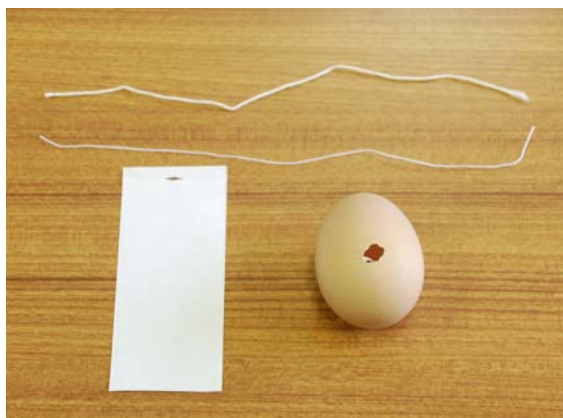
神奈川県畜産技術センター

<制作編：ぶうりん> ちょっと難しい！ 大人向けに書いています。

<用意するもの>

よく乾燥したたまごのカラ、（横側に穴の開いたもの）、紙粘土、紙、
 タコ糸と糸・各25cm、（鈴）、アクリル絵の具、筆・水入れ・パレット、
 （パレットはお皿+ラップにすると洗わずに捨てられるので便利！）、
 工芸用グラインダー※、金ヤスリ、木工用ボンド、カッター、竹グシ
 ・汚れ防止に新聞紙などの上で作しましょう。

※ガラス工芸用などに売っています。ここでは細めのヤスリをつけて使います。
 （歯医者さんのヤスリのような物。ルーターと呼ぶことも。）



<出来上がりイメージ図>

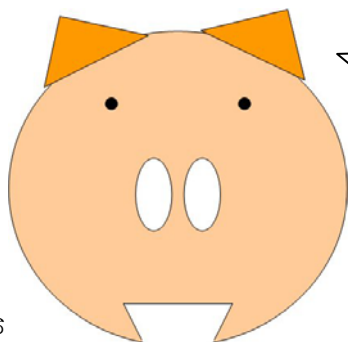


図1 かお

割れちゃう
 ので音は
 できません
 見た目
 で涼んでね

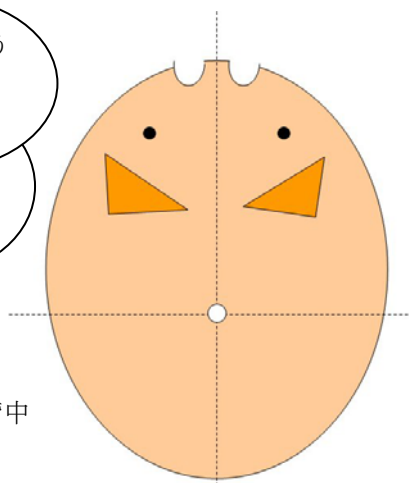


図2 背中

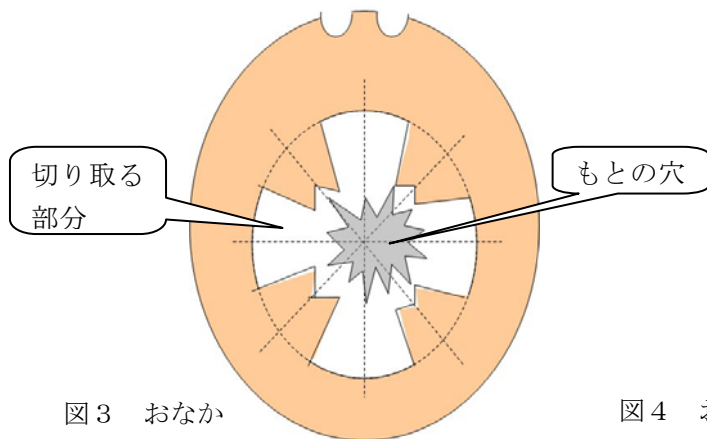


図3 おなか

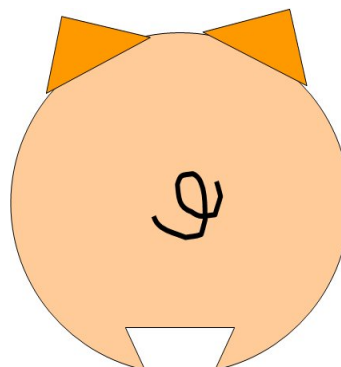
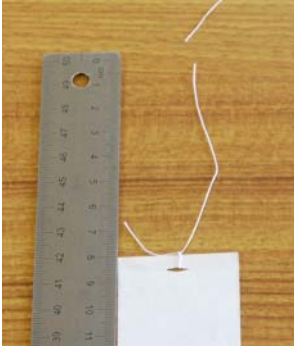


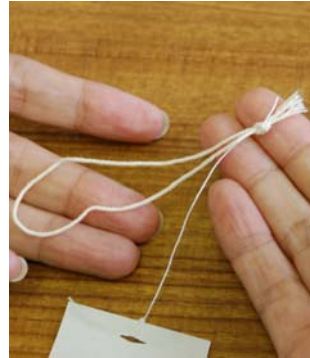
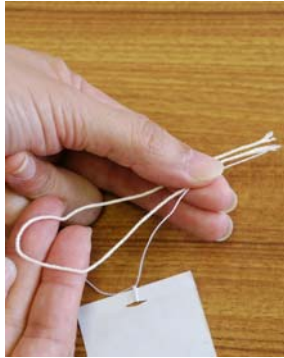
図4 おしり

<作り方>

①紙を約4×10cmくらいの短冊等（お好みの形で）に切り、絵や文字を書きます。
上に穴を開けて糸を結んでおきます。



②タコ糸20センチ（例：お好みで長さを変えて）を二つに折り、糸を紙から8cm程度のところで切り、3本一緒に一結びします。（鈴をつけても↓）



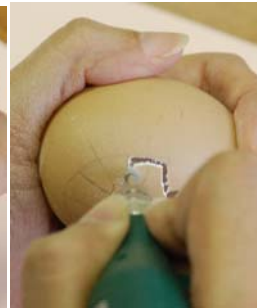
③カラのとがったほうにグラインダーを使って鼻の穴を開けます。すべてに共通しますが、先に Cutter など傷をつけると楽です。（図1参照）



④背中側に、グラインダーを使ってひもを通す穴を開けます。（図2参照：使うタコ糸2本通る程度、直径2ミリくらい。少しおしりよりに。）

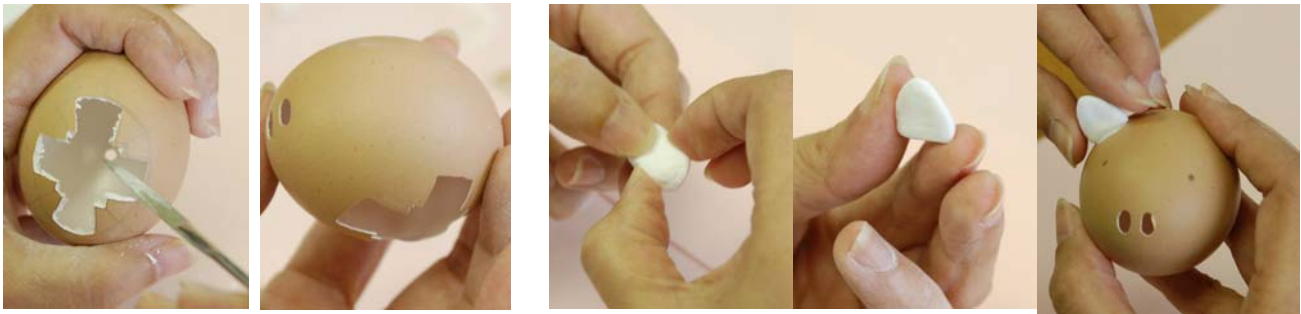


⑤もとの穴の開いている側に、図3を参照して鉛筆で楕円を書き、八等分した線を目安に足の下書きをし、グラインダーを使って図の白で示した部分を削り取ります。
足部分は大変弱いので注意して。一筆書きでなく、少しずつ切り取るようにすると失敗が少ないです。



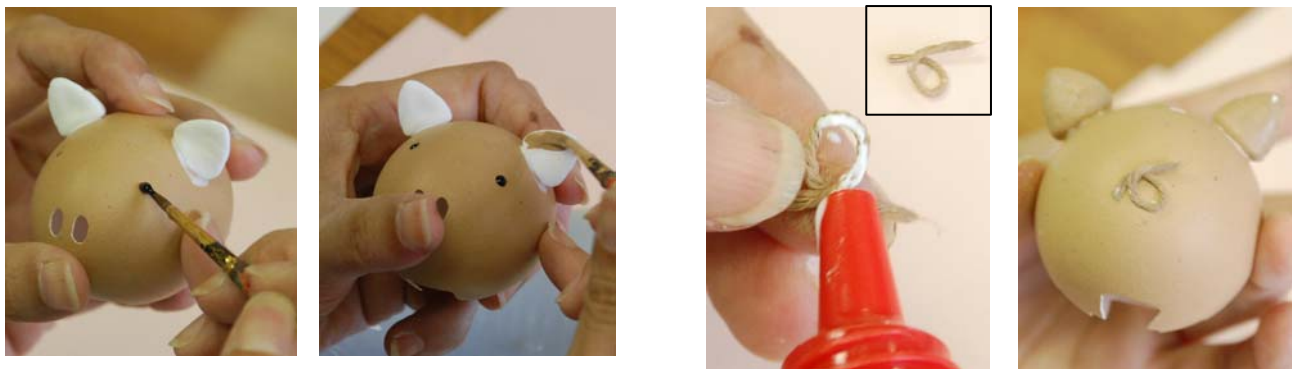
⑥グラインダーで削った部分に残る薄皮を全て、金ヤスリで削り、なめらかにかきします。鉛筆を消しゴムで消します。

⑦耳：紙粘土で形を作り、ボンドで貼り付けます。



⑧目：鉛筆で下書きし黒絵の具で書きます。
耳：紙粘土が乾いたら、カラにあわせて色をぬります。

⑨しっぽ：色をぬったタコ糸3～4センチを一巻きして、ボンドでつけます。（図4参照）



⑩②のタコ糸の輪の部分、竹グシなどを利用して腹側から背中に向けて通します。

通したタコ糸を背中側からもう一度結べば抜けません。 ☆ひもなしで置物にしても！（背中への穴は不要）

